薫風

題字　廉隅　進

第　55　号

明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部
なため会会報

中部・関東地区 懇親ワンデルング
「御池岳・一二四七m」

〝バリエーションルートで
鈴鹿の山の最高峰をめざす〟

二〇一七年五月二十七日（土）
土倉岳、御池岳、T字尾根の周遊コース

参加者（敬称略）

中部地区
S37卒 BN477 天野　俶明
S49卒 BN753 小松　宏之
S57卒 BN906 石田　猛
S44卒 BN682 森田　峰彦

関東地区
S38卒 BN505 椎橋　稔
S45卒 BN705 杉山　裕
S50卒 BN775 小田野義之
S43卒 BN2120 鈴木　元典

二十八日の懇親会のみの参加
S41卒 BN612 山内　利人

五月二十六日（金）

関東の五名が名古屋へ、ご好意で天野ＯＢの会社所有のアパートに小松ＯＢを合わせた六名が宿泊。二泊分の宿泊代が浮いた関東地区の五名は大助かりでした。

この夜の歓迎会では森田ＯＢを除く八名で大いに盛り上がりました。

五月二十七日（土）

六時、天野・森田両ＯＢの車に分乗してアパート前を出発。途中で石田ＯＢを拾い、東員ＩＣまで高速道路を使い、鈴鹿山中へ向かいます。天気は上々で、鈴鹿の山々が指呼に望めます。特に、秩父の武甲山のように砕石のために削られている藤原岳はすぐにわかります。

三重県いなべ市から、鈴鹿山脈の真下を突き抜ける石槽（イシグレ・とても読めません！）トンネルを通過して滋賀県東近江市へ入り、御池林道を登山口へ向かいます。天野・森田両ＯＢが運転するオフロード車は、舗装しているとはいえ、すれ違いの危うい狭い道をとんでもないスピードで走って行きます。とても高齢者の運転とは思えません。（山登りも同じように達者でした）

登山口から、右回りの周回ルートをとります。ヤマヒルが多く、沢沿いが最も危ないといわれるので、みんな足回りへの防虫薬散布やスパッツを堅く締めるなどの対策をして恐る恐る歩き始めましたが、今日はお出ましにならなかったようで、ホッとしました。

御池川の支流を鉄製の橋で渡って、ミソサザエの高らかに囀る沢沿いの道から峠を目指します。コースリーダーの森田ＯＢは歩くのが早く、ペースメーカー気取りでセカンドについた私も、ついつい引っ張られて、ノタノ坂までの一本は早めのペースになり、あとでみんなに散々非難されました。

しかし、天気は予報通り良く、新緑を渡る風は爽やかで、汗をビッショリかくということもなく、次の一本は一気に土倉岳まで登り切りました。御池岳の特徴である絶壁に囲まれたテーブルランドの特異な形状が眼前に広がり、期待がいや増します。一〇〇m少しの標高差ですが、ほとんど直登の急斜面なので

滑りやすく、雨でも降れば散々苦労するのは想像に難くありません。

登り切ったところはテーブルランド東端で景色もよく、石灰岩が散らばるカルスト地形特有のまさに牧歌的な雰囲気があります。また、このあたりからだと南に伊勢湾、北には琵琶湖が見渡せます。先へ続く道は踏み跡程度ではっきりせず、一面はほとんど藪のない草原状なので、少しばかりの高みを目指しながら、テーブルランドの北側を三々五々進んでいきます。「青のドリーネ」と呼称の付く窪みを見ながら、時には石灰岩を踏みしめ、背の低いコバイケイソウの群落の中を歩いたりしていくと、登っているときには誰とも会わなかった登山客があちらこちらと出没し始めました。奥ノ平という高みからは、ドリーネでくねくねと凹凸のある草原状のテーブルランドが一望でき、美しくも清々しい景観に引き込まれます。

御池岳山頂（丸山）は三角点もない平らなところで、北側の一般コースから次々と登山者の群れが到着します。我々もここで長い食事休憩を取りました。今回最年少の石田ＯＢが美味しいコーヒーを入れてくれたことを付け加えておきます。山頂からはテーブルランドの南側コースに向かいます。天狗岩やらボタンブチと呼ばれている崖っぷちが自然の展望台となっていて、気持ちがいいことこの上ありません。そして下山コースのＴ字尾根がまさに文字通りに連なっているのを展望できます。家族連れや若い人も多く、あちらこちらの草の上でピクニック気分よろしく楽しそうにお弁当を広げています。

さて、いよいよＴ字尾根に向かい、降り口から急斜面を慎重に下ります。下っている時には尾根を観望できませんのでＴ字尾根を逸れる危険性もありそうですが、少ない赤布とわずかばかりの踏み跡を辿り、森田ＯＢの先導によって無事尾根筋に入りました。稜線は痩せている所もありますが、雑木林的な快適なところが多く、とても癒される道です。しかも他の登山者にも会いません。順調にＴ字の基部に到着し、左の尾根に向かいます。この尾根道も雰囲気がよく疲れを忘れさせてくれます。あれこれ冗談交じりでしゃべくりながら、全員元気良く下山できました。

予定よりも一時間半ほど早く着き、「休憩が少ない」との非難も少しく出ていましたが、みんな元気で楽しく愉快に歩き通しました。そして、お互い初めて会う先輩後輩、全く久しぶりに会う先輩後輩の集まりでしたが、さすが一緒にワンデルングすれば、すぐに打ち解けあって愉快なワンゲル仲間となりました。こういう機会をまた作ることができればと切に思って帰ってきました。

前日の歓迎会も盛り上がりましたが、当日の懇親会は山内・森田両ＯＢも参加され、いつものメンバーと稀なメンバーが入り混じって大変愉快な会となりました。

小田野・記

なため会ワンデルングは あなたの参加を待～っている

企画振興部　BN 795　濱田　稔

学生時代「人生は重荷を背負いて長き道を登る如し」と偽り、合理化しながらＭＷＶをやってきた自分。「心が変われば態度が変わる　態度が変われば行動が変わる　行動も変われば習慣が変わる　習慣が変われば人格が変わる　人格が変われば運命が変わる　運命が変われば人生が変わる」とヒンドゥ教徒でもないのに、けなげに信じ生きている現在の自分。これも偽りかと頭をよぎる。

そう思ったとき、何だ、なため会ワンデルングもそうじゃん！と閃きました。「ワンデルングが変わればなため会も変わる　なため会も変わればなため会の運命も変わる？？？」そんな訳ネェ～だろ！まぁ、人生試行錯誤の連続。失敗、失敗、また失敗と富士の山より高い失敗の山を築いても、最後に成功すればいいじゃん。その粘り強さと楽観。これぞ、ワンゲルで培った精神！企画振興部のメンバーもチョ～軽いノリで「そうだ、そうだ！ワンデルングを変えろ、変えろ！」の大合唱。

「フム、高尾山？・・・三ツ星の山？・・・それがどうしたの？」「高尾の薬王院で精進料理を食わせるんだってヨ。お前みたいな素行の悪いヤツは、精進料理でも食って、身を

清めたほうがいいんじゃネーの?」「高尾山は良く行くけど、精進料理は食ったことねぇな。よし!8月のワンデルングは薬王院の精進料理で決定!」

「ファミリーキャンプはどうよ?おかんから肝心なときに役立たずと罵られてるダメ親父の株も、昔取った杵柄、少しは上がるぜ」「いいね、いいね。丹沢にH4年卒の前田OBの世附川ロッジというキャンプ場があるぜ」「じゃ、マネージ行ってきます」「よっしゃ、10月のワンデルングは、ファミリーキャンプに決定!」

「女性会員の参加が少ないね」「女性が参加すると、横浜のAをはじめ男どもがが鼻を伸ばしてじゃんじゃん参加するヨ」「そういえば、鎌倉の時がそうだったな」「箱根は女性も参加しそうだし、横浜のAもニヤケ顔で参加するよ」という訳で、平成29年5月20日第61回なため会箱根古道ワンデルングが決定されたのであります。

MWV発行「30年のあゆみ」を読むと、昭和12年3月、箱根湯本から箱根旧街道を三島まで歩く第6回ワンデルングが、春日井先生をはじめ8名の方によって行われたと記載されています。クラブ発足時に文部省の要綱を参考にした部綱領が産声を上げました。当時の部綱領は「われらの国土を遍歴して美しき自然に親しまん」「日本の地理と民俗に触れて日本精神を発揚せん」「友愛と団体精神に依て力強く結び合わん」「純朴に剛健にスポーツ精神を発揮せん」「祖国愛と国民精神に集まる健児の一党たらん」というものでした。春日井先生は、特に「われらの国土を遍歴して美しき自然に親しまん」「日本の地理と民俗に触れて日本精神を発揚せん」「友愛と団体精神に依て力強く結び合わん」「純朴に剛健にスポーツ精神を発揮せん」と高らかに謳うこの四項目の部綱領を意識して、このコースを企画されたのだと確信しました。春日井先生と当時の学生が部綱領に則り企画したそのコースを、80年後の今、我ら往年のワンダラー9名は、ここに集い歩くのです。

「宣誓!　鈴木会長はじめなため会W常連の9名は～、第61回なため会箱根古道ワンデルングを～、明朗と友愛によって盛大に～、挙行することを～、誓います!」新緑まぶしい箱根湯元駅前で声高らかに選手宣誓すると何かうれしく、一同感涙に咽ぶのでした。

寄木細工の里畑宿でバスを降り、石畳の旧箱根街道を颯爽とそして、とぼとぼ歩きました。石畳が凸凹して歩きにくいうえ、苔で滑りやすい。さすが天下の険、いやに急だ。こんな路をわらじで歩いたのか。参勤交代の殿様はここを駕籠に乗ったまま通ったのか、それとも誰も見ていないから、家来思いの殿様は駕籠から降りて歩いて登ったのか。う～ん、想像力を掻きたてるなんとも知的なワンデルング、エキサイティング、クールいやもう汗びっしょり。汗といえば参加者に一言、お断りしなければならないことがありました。予定していた懇親会場に予約を入れたところ、設備メンテナンスのため休業しますと冷たい返事。入浴付きのいい所だったのに。気を取り直してほかの会場をあたるも、ホテルは数あれど時間の折り合いがつかない。まぁ、い

いか。軽〜く会場を小田原の老舗料理店に変更。やれやれ。ところが、参加者には会場変更の知らせはしたけれど、意識的に入浴なしを伝えませんでした。入浴なしでは参加しないという輩を心配したからです。案の定、当日それを知ったS嬢から早速大ブーイング。「箱根に来て風呂に入らないって、どういうこと！それを知ってたら来なかったわよ…」とそれはそれはもうカンカン。ここは箱根。箱根はあだ討ちの元祖、曽我兄弟の出身地。そう、あだ討ち、だまし討ちありの箱根だよ。曽我兄弟の生まれ在所をおめさん知らねェのかと、とぼけるわたくし。もっとも、S嬢の言われる事ごもっとも、一理も二理もある。いわんやここは、箱根八里だ。コースを一部変更して、風呂に入るとのO先輩の調停案で一件落着。

屏風山への登りは地図では分からない意外な急登。美しい声でさえずる鳥に、O先輩曰く「あれは、キビタキ」と、さも詳しそうに説明される。私でも分かるウグイスも鳴いて癒してくれる。あせびやひめしゃらの新緑も美しい。残念だったのは、屏風山山頂（942・2m）は潅木に覆われ、展望がなかったことだ。下から見ればそそり立って見えるであろう屏風山。下りも想定外の急勾配。やっとのことで降り、関所跡へ。ここだけ江戸時代にタイムスリップしたような、そして、江戸時代の関所の建物が妙に新しく、違和感を感じる場所だ。

恩賜箱根公園の木陰で昼食をとり、バスで箱根湯本のカッパ天国へ。さっぱり汗を流し小田原へ移動。あれ？二人いない。何と二人は本隊をほっぽりだし、さっさと一本前の電車で小田原に向かっているところでした。部綱領「友愛と協同によって力強く結び合わん」卒業して4、50年もたつと部綱領も忘れてしまうのでしょうか。それとも、団体行動を取れなくなったお年かな。

懇親会場で先発二人組に落ち合い、おいしい料理に舌鼓を打ち、酒を酌み交わしアッハッハと笑い、時間が過ぎるのを忘れるほどでした。こういうご馳走の席で、春日井先生の唱えた明朗と友愛のワンダーフォーゲル精神が十二分に発揮されたのでありました。かくして、部綱領に沿ったなため会箱根古道ワンデルングは無事終了したのであります。帰りはおサルの駕籠屋がなかったので、しかたなくロマンスカーでビューンと帰りました。

企画振興部では、これからも明朗で友愛に満ちたワンデルングを企画していきます。

第62回W　8月26日（土）

高尾山薬王院で精進料理を食べるワンデルング

第63回W　10月28日（土）〜29日（日）

平4年卒前田OBが経営する世附川ロッジ（丹沢湖）でファミリーキャンプを企画しています。

1ヶ月前にメール等でご案内します。なため会ワンデルングは、あなたの参加を待〜ってます。

■第62回なため会「薬王院精進料理を食するワンデルング」のご案内

なため会企画振興部

三ツ星の山、東京近郊の山として親しまれている高尾山は、日本でも屈指の動植物の宝庫です。昆虫は5、6千種で、日本の昆虫の3大生息地と言われ、植物は日本全国の植物の1／4の1300種もあります。西暦744年開創の薬王院が植物伐採を禁じていたのも、その大きな要因です。

日頃の運動不足解消を図り、自然観察をしながら豊かな自然を実感し、明朗と友愛の気持ちで薬王院の精進料理を味わいたいと思います。また、薬王院近くまでケーブルカーを利用して手軽に行けるので、山登りに遠ざかっているOB・OGのご参加もお待ちしております。同期の方をお誘いして、奮ってご参加ください。

記

1　実施日　2017年8月26日（土）
2　場　所　高尾山
3　歩　行　2時間10分
4　費　用　7,000円（懇親会費、ケーブルカー（片道480円）、精進料理）
5　集　合　Aコース、Bコース
　高尾山清滝駅前　8時40分
　Cコース　薬王院に11時30分
　（10:30のケーブルカー乗車）
6　コース
(1)Aコース　6号路＝高尾山頂（599m）（10:20／10:40）＝4号路＝薬王院（11:20参拝の後、12時より精進料理）＝山頂駅（ケーブルカー）＝清滝口
(2)Bコース　ケーブルカーと1号路を使って高尾山に登るコース　清滝駅＝ケーブルカー＝山頂

駅＝1号路＝高尾山　Aコースと合流

(3)Cコース　ケーブルカー利用で薬王院に直行するコース

7　**その他**　雨具、入浴時のタオルを忘れずに（雨天決行）

8　**申込み**

(1)メールでの申込み

1．参加コース名　（A、B、Cコース）

2．BN　氏名

1、2を記載してkikaku@natamekai.orgに送付してください。

(2)電話、Cメールでの申込み

090－8248－3032（丸山貞二859）に電話又は、Cメール（メールと同じ要領で記載）してください。

9　**締切り**　2017年8月16日（土）

10　**次回のワンデルング**

10月28日（土）～29日（日）

H4年卒前田OBが経営する世附川ロッジ（丹沢湖畔）でファミリーキャンプを開催します。一人又は、友人との参加、お孫さんを連れての参加も大歓迎。

■夏合宿BCのご案内

今年の現役夏合宿は九州で行います。ベースキャンプには左記の日程で入りますので、皆様のご来場をお待ちしています。ご希望の方は、8月上旬までにご連絡ください。

なお、九州在住の方にはご案内状を送付いたします。

日　時：9／8（金）～9／10（日）

場　所：えびの高原キャンプ村

〒889－4302　宮崎県えびの市大字末永1470番地

TEL：0984－33－0800

HP：http://www.city.ebino.lg.jp/display.php?cont=1403281554326（えびの市ホームページ）

連絡先：落合祐太（主務）

〔電話〕080－2017－7960

〔e-mail〕y.0303.ochi1993@gmail.com

宿泊施設のご案内

えびの高原荘

〒889－4302　宮崎県えびの市末永1489

TEL：0984－33－0161

HP：http://www.ebinokogenso.com/

無料駐車場50台完備

二〇一七年　情断会スノーワンデルング
袴岳と斑尾山

BN 788　原田　博文

毎年恒例の情断会スノーワンデルング。今年は斑尾高原の「袴岳」と「斑尾山」に行ってきた。参加者はいつもの五人（小田野、高島、宮澤、小川、原田）。首都圏からは遠いが、さすが豪雪地帯、昨年の奥日光が雪不足で不完全燃焼だった分を一気に取り戻してきた。今回も晴天に恵まれたのは言うまでもない。

三月十一日（土）

午前七時三十分に原田の地元「桶川駅」に集合。ジャンケンで車の座席を決めていざ出発。小型SUVの後席に大人三人乗車はきついので、行程中三回ジャンケンにより席決めをしたが三回とも小川が勝って助手席をゲットすることとなった。

関越自動車道はスキーシーズンで交通量は多いものの特に渋滞することもなく、藤岡ジャンクションから上信越自動車道を経て「信濃町ーC」に到着。この頃は山も周囲の景色も真っ白、雪もちらちら舞って来た。今日登る「袴岳」登山口には予定通り十一時過ぎに到着、ちょうど一台分空いていた駐車スペースに車を置いて登山開始。

道路沿いに登山口の看板がある筈だが雪の壁に埋もれていて見つからない。先行者がよじ登ったと思われるところから我々も山に入る。積雪はどの位あるのだろうか、夏道の気配も感じられないが、先行者のトレースを辿ってブナ林の中を進む。この頃になると青空がのぞくようになり、完全装備で歩いていると汗ばむほどの暖かさとなった。

赤池方面からの尾根に合流したところは広い平坦な丘になっていて景色が良い。目の前には明日登る斑尾山が見える。赤池方面から入った人もいるようでトレースがついていた。ここから少し下った鞍部で腹ごしらえをして袴岳山頂を目指す。山頂直下で下ってくる若い男女のグループに出会った。キャッキャ、キャッキャと楽しそうである。若いっていいなと思うオジサン達であった。

斑尾山の北に位置する袴岳は標高一一三五mとそれ程高くはないが、広々とした山頂からは黒姫山から飯縄山が望め、眼下には野尻湖が見える。しばし展望を楽しみ、山座同定

などした後は来た道を下山である。フカフカの新雪の上を好き勝手に歩き、あっという間に登山口に帰り着いた。慎重に車道に下り一日目の行程は無事終了。本日の宿、タングラムスキー場の中の「東急ハーヴェスト斑尾」にチェックイン。先ずはビールで乾杯。食べ放題のすき焼きの牛肉がハンパない硬さだったけど、たっぷり美味しくいただきました。今日も一日お疲れ様でした。

三月十二日（日）

バイキングの朝食を腹いっぱい食べ、早々に車で斑尾山の登山口である「まだらおの湯」に移動する。広々とした駐車場で身支度を整えていよいよ行動開始だが、ここでも登山口の案内板が見当たらない。すべては雪の下なのだろう。まだらおの湯の関係者と思われる人に聞いても「裏からだよ、雪が多いよ」というだけ。取りあえず行ってみようということで裏に回ったが、除雪した雪が積み上げてあるだけで人が歩いた気配はない。今日はまだ山に入った人はいないようだ。

ようやく夏道らしきものを見つけ（地図上の夏道とは若干違うようだが…）登山開始。トレースがないのは気持ちがいいがルートが分からない。が、そこは明大ワンダラー、地図とコンパスを見ながらルートファインディングである。適度に締まった雪の上にはウサギやキツネと思われる動物の足跡がたくさんある。林道らしきところを何度か横切り、尾根の高いところを目指してラッセルするうちに休業中のスキー場のトップに到着。主稜線はもうすぐだ。主稜線に上がったところで一本取っていると、後から別のパーティーが登ってきた。我々と同じルートで登ってきたのだろうか。頂上近くでは別のスキー場から登ってきたスノーボーダーが先行しており、トレースの有難みをつくづくと感じた。

山頂は冬枯れの木の間から妙高山や黒姫山が間近に見えるが、ここから十分ほどの大明神岳の方が展望が良い。風もなく暖かな山頂でのんびりと食事をとった後は来たルートを戻る。下りは新雪を蹴散らして一気に駆け降りあっという間に登山口に到着。今年の情断会スノーワンデルングも皆大満足で大成功であった。

不思議な御縁

BN 1017 山口　直樹

私は千葉県立柏高校時代、吹奏楽部に所属し、アルトサックスと指揮を担当させていただいた。私は10期生で歴史の浅い学校にも拘わらず、一応進学校（ただ単に進学希望の生徒が多いだけの話だが…）であったことから、吹奏楽部では2年生から3年生に進級する春に定期演奏会を開催し、それを以て引退という「しきたり」が既に出来上がっていた。

私が引退する１９８１年の春は第５回定期演奏会。以来毎年、後輩の皆さんが歴史を積み重ねて下さり、今年２０１７年の春は第41回であったため感無量である。毎年、定期演奏会終了後に多世代の卒業生が柏の街に集まり懇親会を開催する文化も根付いてきた。私も毎年楽しみに参加させていただいている。その他にも顧問の先生の定年の折、感謝をこめて祝賀会を開催したり、今でも楽器を続けている卒業生の演奏を聴かせていただいたりしている。

さて、前置きが長くなったがここからが本題。数年前に柏高校吹奏楽部卒業生数名で、現役時代の顧問の先生もお誘いして、飲み会を開催した折、2年後輩の女性（クラリネット担当）と話をするうちに、その女性が「山口

さん、もしかして明大でワンゲルに所属されていませんでしたか?」と切り出した。私は「彼女に大学時代の話をしていないのに、どうして知っているのかな。」思いつつ、不思議そうな顔をして肯定の返事をすると、『実は私の主人は、先輩の1年下で、すぐに退部したらしいのですが、明大ワンダーフォーゲル部に所属していたらしいのです。部誌を1冊持っており、巻末の部員名簿欄に「2年部員　山口直樹　出身高校　県立柏高校」の旨、記載がありましたよ』と驚くべき発言。しかも御主人は、当時2年部員で和泉トレーナー担当の私を覚えていてくれているとのこと。「不思議な御縁だね。」と話は大いに盛り上がった。彼女は日本女子大学に進学した後、駿台祭に遊びに来て、ご主人の所属するバトミントンサークルのブースで御主人と知り合い、結ばれたとの話。御結婚以来、御主人が家具店を営む北海道千歳市に在住。わざわざ飲み会の為にご主人とお子さんを放り出し、柏に帰郷してくれたために判明した事実であった。

今年6月3日、所用のため北海道を訪れた折、後輩の女性に連絡し、一緒に札幌で昼食。四方山話で盛り上がり、御主人の店の場所を教えてもらった。食事後、札幌に別用がある彼女とスープカレーのお店を後にし、一人電車に乗り、千歳の店に御主人を訪ねた。大きい家具店で品揃えも豊富。社長室に案内いただき、コーヒーをご馳走になりながら、彼の入学当時の話を伺った。1984年4月、新人歓迎合宿を草津白根山荘で行いその合宿に参加した後、退部とのこと。当時のことで話は盛り上がった。経済学科出身でBN1034　飯渕純さんと同じクラスだったとのこと。

ちなみに、彼は望月秀則さんというお名前で、失礼ながら私は彼のことをほとんど覚えておりません。

手白小屋年末顛末記

BN846　植木　進

参加者：諏訪本監督、小田野・植木（山小屋管理部副部長）、井上コーチ、諏訪部コーチ、落合・荒木（4年部員）、吉田・奥山（3年部員）

・12／29　午前9時、今市のイオンに集合し食材買い付け。9人分の食材となると、体二回りほどの長いレシート。その後車3台に分乗し、手白沢温泉入口から歩き始める。程なくして一行から、エッあの小田野副部長が遅れ始める。本人曰く、半年前に喘息を患い現在タバコを休止中（その後タバコを吸うと咳がおさまるというやっかいな喘息?）午後2時過ぎに小屋に到着。水が出ていないため、新助沢まで水汲みに向かう。ねずみ取りには5匹の収穫。

夕食は定番のおでん。初日で浸み込みはいまいちだが、やはり手造りは美味い。夕食後はこれまた定番の歌唱指導。今回奥山が山の歌を何曲か録音してきたため、指導は不要と思われたが、録音にない「安曇節」がまるでなってない。

小田野副部長の熱血指導が炸裂する。

・12／30　雪降しの必要がなくゆっくりと起床する。朝食後、現役は毛布を貰い受けに加仁湯まで往復する。午前9時頃、諏訪部コーチが合流。「なんでこんなに早い時間に」と驚いたが、湯西川の道の駅で仮眠したそうだ。60歳の自分にはとうてい不可能な行動だ。昼うどんを食した後、各自自由

マーボライスできたかな

に過ごすが、大半は昼寝。特に4年部員の落合はよく飲みよく寝ていた。4時の気象通報で天気確認後、夕食の準備に入る。今夜の主食はマーボライス。諏訪本監督直伝により中華鍋を振り回す荒木と吉田。

食後3年部員の奥山がいきなり「お正月の歌」を歌い始める。一同シーンとするが、部員によれば、このような唐突な行動は常に無視しているとのこと。このキャラはひょっとすると下級生からは慕われているかもしれない。加仁湯でいただいた暖かい毛布にくるまり深い眠りにつく。

下山前に全員集合！

・12／31　今日は最終日。小屋にある不要物の焼却と併せねずみを茶毘に付す。

井上コーチが2日間煮詰めた「もつ煮」を土産に一同下山する。加仁湯で一汗流し社長からはコーヒーのサービス、年越しの天婦羅そばを食し、解散する。

毎年恒例となっている手白の雪降し。最近は現役も参加し賑やかな年の瀬となりました。6月のワーク（主に薪作り）とともにOBの皆さんの参加をお待ちしてます。

■投稿募集のご案内

日頃ご愛読いただき、誠にありがとうございます。薫風では幅広い世代の皆様から投稿を募集しています。

【テーマは問いません】

山やワンデルングにまつわるお話などに囚われず、皆様の身近な話題や趣味のお話から、野球、ラグビー、駅伝といったスポーツなどへの思い入れなど、何でも構いませんので、どしどしご投稿願います。

【投稿のスタイルも問いません】

紙面の都合がありますので、文章であれば原稿用紙3枚程度にまとめていただけると助かりますが、例えばフェイスブックやインスタグラムのように、お写真に簡単なコメントを寄せていただくのも大歓迎です。

※今号から一部をカラー化しています。カラー写真ならではのバリエーションにに富んだ絵柄もお待ちしています。

【広告も募集しています】

例えば地方在住で観光業に携わっている方や、通信販売でご商売をされている方からの広告なども、大いに掲載させていただきたいと存じます。

掲載スペースは1段、2段、3段（全段）の三種類で、お値段は1段：1万円、2段：1.5万円、3段：2万円です。

きちんとした原稿でなくても結構ですので、お気軽にご相談ください。

「薫風」のプロファイル

発行時期：原則として1月下旬、7月下旬（年2回）

発行部数：約900部

【応募先について】

次号（第56号）掲載分

締　切：12月28日（木）

送付先：巻末に記載の各編集委員または左記担当者

BN879　井上稔也

住　所：〒359-0047 所沢市花園2-2406-65

電　話：070-5466-1521

メール：sp4v2t89@globe.ocn.ne.jp

Fax：03-3486-8340

※Faxは共用ですので宛名を明確にして送信願います。

■会員情報の連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、左記の総務部宛にメールまたはファックスで送信していただくか、あるいは直接担当者までご連絡願います。

※今年は会員名簿の改訂（5年に1度）が予定されています。住所を変更された方や住所不明者の消息をご存知の方は、ご連絡願います。新しい名簿は来年1月発行予定の薫風に同封されます。

総務部アドレス：soumu@natamekai.org
ファックス：03－5539－4245
平田　正博（871）
住　所：〒270-0101 流山市東深井846-58
電　話：090－5811－0189
メール：hirata@mikasas.co.jp

山の歌アルバムを編集しました

BN 552　坂上　雅彦

1965年（昭和40年）卒業の76歳です。アルバム編集に至ったのは「2013年・奥鬼怒山荘落成50周年式典」での歴代のOBOG・現役152名による会場での「部歌なため」の大合唱の感動がきっかけです。

それがこうじて山に関する歌の音源を集めて10数曲58分をCDにダビングして歌詞集を添えた「初版」を完成。それを2014・15年の卒業4年部員にお祝いとして進呈させて頂きました。

続いて行われた「2015年MWV創部80周年式典」を記念して「初版」を改編した20数曲80分の改訂版「山の歌アルバム」CDを作成しました。これは諏訪本監督が編纂された「MWV山の歌集・2015年改訂版」の曲を可能な限り音源を捜して編集させて頂きました。その「第二弾」も2016・17年の卒業4年部員に卒業祝いとして進呈させて頂きました。

我々の現役時代は、山行・テントサイト・移動時の車内などで「キャンソン」と言われていた歌集を手にして蛮声をはり上げて楽しんでいたのが思い出されます。

ところで時代も変わった現在の部員達は、どの様な場面でどんな曲が歌われてわれているか興味津々です。どなたかの投稿を期待しながらペンを置きます。

改訂版収録内容

1. 坊がつる賛歌（旧広島高等師範学校　山岳部歌）芹　洋子
2. 穂高よさらば　芹　洋子
3. 穂高に叫ぶ　古賀　さと子
4. 雪山に消えたあいつ　横内　正
5. 惜別の歌（中央大学・学生歌）　渡　哲也
6. 山の友よ（成蹊大学山岳部・虹芝寮歌）ハニーナッツ
7. 山男の歌　ホレスタ
8. エーデルワイズの歌（法政大学　山岳部歌）　歌声喫茶
9. 雪山賛歌（旧京都帝大　山岳部歌）　白樺合唱団
10. シーハイルの歌　さとう　宗幸
11. 岳人の歌　青柳　常夫
12. ワンダーフォーゲルの歌　〈カラオケ〉
13. 旅鳥
14. 遠き山に日は落ちて　小鳩　くるみ
15. 燃えろよ燃えろ　杉並児童合唱団
16. 山小舎の灯　近江　俊郎
17. 今日は野を越え（日本大学　山岳部歌）　芹　洋子
18. いつかある日　芹　洋子
19. 遥かな友に　芹　洋子
20. 山の子の歌　芹　洋子
21. 鉈目・なため（明治大学　ワンダーフォーゲル部歌）
22. 正調　安曇節（長野県北安曇郡松川村・安曇節保存会）
23. 紫紺の歌
24. 明治大学校歌　明治グリークラブ合唱団
25. 創部80年の生い立ち「なため会」　鈴木正彦会長
26. 現部活動紹介・主将　松田彩友美

※ご紹介した改訂版をお聴きになりたい方は、広報推進部・井上（879）までご一報ください。
（連絡先はP８下段に記載）

平成28年度 卒業生 歓送迎会

■日 時　平成28年２月25日(土) 12時30分～15時30分　■場 所　大学会館 ３Ｆ

■式次第（敬称略）

12:30	開　会	13:30	乾　杯
	部長先生挨拶		歓　談
	会長挨拶		記念品贈呈
	監督挨拶		なため斉唱
	送　辞		校歌斉唱
	答　辞		記念写真撮影
	バックル授与	15:30	お開き

■出席者：91名

●卒業生：９名

1304 松田彩友美　1305 永田　真帆　1306 由水　雅也　1307 池田　将太　1308 今井　悠貴　1309 近藤　諒生
1310 神内　亜美　1311 佐藤　光時　1312 高橋辰之介

●なため会会員：41名

181 新村　貞夫　455 飯村　朋圀　477 天野　俶明　489 野村　司　495 深田　裕弘　505 椎橋　稔
527 池田　陽一　532 鈴木　正彦　597 大洞　聰　601 池上　勝彦　661 大賀　徹雄　705 杉山　裕
728 横尾　廣志　751 諏訪本充弘　775 小田野義之　788 原田　博文　817 和賀井英雄　835 猪狩　稔
838 龍　君江　871 平田　正博　879 井上　稔也　888 関口　健二　897 山下　仁志　1000 長峰　章
1005 原　宏　1064 井上　堅一　1115 上原　誠　1156 中村　央　1174 尾崎　剛史　1226 杉山　文啓
1282 諏訪部貴亮　1283 鈴木　優花　1285 荒澤　裕司　1291 渡辺　千佳　1296 前川　晃慶　1297 野村　啓悟
1301 本行　優生　1302 望月健太郎　2120 鈴木　元典

●現役：41名

主将 福士　嶺　主務 落合　祐太　４年 荒木　清香　４年 伊藤　嘉音　４年 乾　真規　４年 茅野　真
４年 塚本　惇　４年 二宮竣之輔　４年 二見　遼　４年 松井　遥奈　４年 水本　ケン　４年 村上　彪馬
４年 森下　立基　４年 山本　新大　３年 朝倉　慶　３年 今井　幹登　３年 大室　克磨　３年 奥山　昴
３年 平　将秀　３年 武内　真　３年 沼田　直也　３年 乗木　大朗　３年 林　薫平　３年 福澤　光浩
３年 藤井裕希恵　３年 守屋　雄貴　３年 吉田　理人　２年 青柳　晃太　２年 安達　千紘　２年 大野　翔也
２年 柿原　匡佑　２年 木皿京太郎　２年 岸光　之輔　２年 小島　桃李　２年 杉井　一毅　２年 高橋　和大
２年 高橋　祐樹　２年 林　亮太　２年 北条　豪一　２年 星輿　志也　２年 山田　健人

ワンダラーのフォト日記

2017
6月25日
加藤

BN.845 加藤　章一

昭和54年度卒　甲府の同期のお店で同期会開催。楽しく、笑いっぱなしの同期会でした。

2017
5月16日
田住

BN.823 田住　学

「田植時
　孫の笑顔も
　　込めて植え」

2016
10月16日
山下

BN.897 山下 仁志

投稿日 2016 年 10 月 16 日
10/15 久々に野球の明早戦で盛り上がった後、日比谷公園まで移動しての拡大同期会でした。

2017
3月19日
村木

BN.826 村木　隆

この連休、秋田は穏やかなお天気でした。男鹿半島のゴジラ岩に行ってきました。夕陽に染まった「火を吹くゴジラ」にしたかったのですが、雲が出てきて「スモーキング･ゴジラ」になっちゃいました

2017
6月18日
村木

鳥海山と天の川の競演！
シャッターをある程度長めに開けて撮ると、実際に肉眼では捉えられないような星も写り込んでいます。とは言うものの、やはり絶景ですよ (^-^)

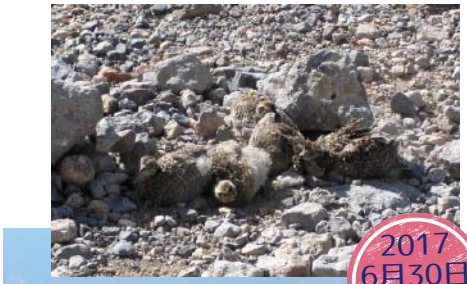
2016
12月5日
山口

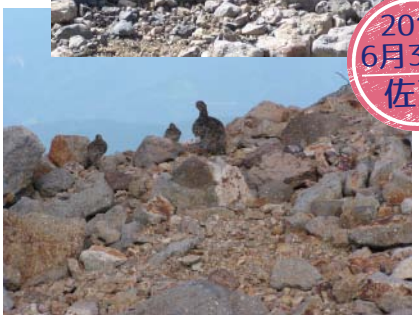
BN.896 山口　正

ここ数年はラグビーの明早戦も同期会のネタにして、ほぼ毎年観戦＆飲み会のパターンです。秩父宮はフィールドが近く迫力があって良いですね。チアも目の前で見られるので迫力満点です (^^)

BN.886 佐藤 伊津英

少し前の写真ですが、仕事で登った乗鞍岳でたまたま雷鳥の親子に遭遇。仕事で山に来て良かった～と思った。





2017 6月30日 佐藤

BN.879 井上 稔也

村木さんのゴジラを見て、去年北海道のウトロでゴジラ岩を見たのを思いだしました。でかいので迫力はあるけど、近寄ると海鳥の糞まみれでちょっと情けないゴジラでした(^^)

2017 4月2日 井上

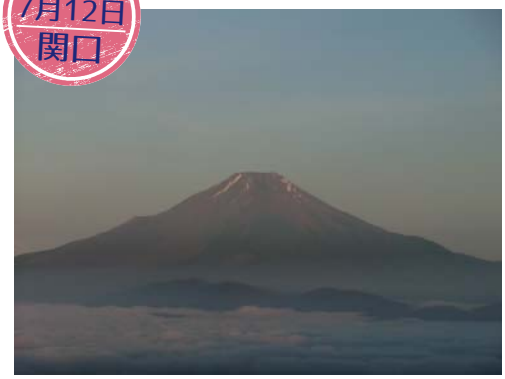
BN.888 関口 健二

江ノ島から昇る初日の出。「身辺の安寧、皆様のご無事、世界平和を祈願致しました」

2017 1月3日 関口

2017 5月5日 関口

（大人になれない）こどもの日に郷路会南関東支部のおっさんワンダラー３名が千葉方面散策＆東京湾を一周。船橋では人生初＆最期の競馬観戦にチャレンジしてあえなく玉砕。たまに勝った配当金は全てビールの泡と消えました。



2017 7月12日 関口

富士山の写真は７月11日朝、丹沢の塔ノ岳から見た富士山です。「夏に丹沢行く奴は馬鹿。でも馬鹿だからしょうがない（笑）」

BN.835 猪狩 稔

毎月開催している幹事会の模様です。なため会の運営にみなさんも是非ご参加ください。

2017 7月12日 猪狩

2017 6月26日 猪狩

BN.835 猪狩　稔

梅雨の合間にカミさんと那須、朝日岳に登りました～(^^)

平成29年度 幹事会・会員総会

■日 時　平成29年５月28日(日) 13時00分～15時30分　■場 所　アカデミーコモン　A1会議室

■式次第（敬称略）

13:00　幹事会　幹事長挨拶

一、審議事項

（一）平成二十八年度事業報告　猪狩幹事長報告
・原案通り承認されました。

（二）平成二十八年度決算報告　柳川財務部長報告
・原案通り承認されました。

（三）平成二十八年度監査報告　横尾監事報告
・原案通り承認されました。

（四）平成二十九年度組織案　猪狩幹事長説明
・原案通り承認されました。

（五）平成二十九年度事業計画案　猪狩幹事長説明
・原案通り承認されました。

（六）平成二十九年度予算案　猪狩幹事長説明
・原案通り承認されました。

二、報告事項

・現役の活動状況報告　諏訪本監督報告

13:30　総　会　会長挨拶
幹事会報告
乾　杯
歓　談
部歌斉唱
校歌斉唱
写真撮影
15:30　お開き

■出席者（会員：33名　現役：８名）

181 新村　貞男	228 島林　順三	343 佐藤　政弘
392 内田　吉成	393 植木　正子	398 小林　伸行
505 椎橋　　稔	527 池田　陽一	532 鈴木　正彦
558 奥村　勇一	610 石田　　正	661 大賀　徹雄
676 野島　一雄	683 横手　一男	705 杉山　　裕
714 南出　　進	728 横尾　廣志	751 諏訪本充弘
764 髙橋　寿子	775 小野田義之	788 原田　博文
792 柳川　俊泰	795 濱田　　稔	835 猪狩　　稔
859 丸山　貞二	871 平田　正博	879 井上　稔也
897 山下　仁志	1064 井上　堅一	1106 前田　裕司
1115 上原　　誠	1196 中村　宏之	1296 前川　晃慶
主将 福士　　嶺	主務 落合　祐太	４年 茅野　　真
４年 乾　　真規	４年 荒木　清香	４年 森下　立基
４年 山本　新大	４年 山下　寛生	

なため会　組織（平成29年４月～平成30年３月）

会　員　総　会

幹　事　会

■顧問　田村　敏夫(800)　新田　功(1100)

■部長　長峰　章(1000)

■相談役　新村　貞男(181)　小林　碧(197)　島林　順三(228)　篠崎　徳量(241)
大内　善一(299)　西村　幸一(313)　足立　康弘(339)　吉田　修(345)
内田　吉成(392)　紀伊辰之助(423)　天野　俶明(477)

運営委員会

■役　員

会　長	鈴木　正彦(532)
副会長	奥倉　勇一(558)　大賀　徹雄(661)
幹事長	猪狩　稔(835)
副幹事長	平田　正博(871)
監　事	池田　陽一(527)　横尾　廣志(728)
駿台体育会理事	諏訪本充弘(751)　和賀井英雄(817)
参　与	奥倉　勇一(558)　横手　一男(683)　濱田　稔(795)
監　督	諏訪本充弘(751)
コーチ	井上　堅一(1064)　杉山　文啓(1226)　浜口小百合(1273) 諏訪部貴亮(1282)　前川　晃慶(1296)

■部　会

総務部	(部長) 小田野義之(775)　(副) 原田　博文(788)　(副) 平田　正博(871) 龍　君江(838)　日暮　浩美(915)　松井　法一(974)
財務部	(部長) 柳川　俊泰(792)　(副) 上原　誠(1115)
広報推進部	(部長) 井上　稔也(879)　(副) 住田　孔一(717)　(副) 加藤　章一(845) 鈴木　康弘(487)　一色　雅男(570)　池上　勝彦(601) 石井　克太(614)　猪狩　稔(835)　日暮　浩美(915)
企画振興部	(部長) 濱田　稔(795)　(副) 丸山　貞二(859)　奥倉　勇一(558) 大賀　徹雄(661)　龍　君江(838)　平田　正博(871) 井上　堅一(1064)
山小屋管理部	(部長) 杉山　裕(705)　(副) 小田野義之(775)　(副) 植木　進(846) 唐川　拓三(850)　山口　直樹(1017)
事業運営部	(部長) 山下　仁志(897)　(副) 安部　好洋(1006)

■運営委員　飯村　朋図(455)　前田　芳弘(501)　松本　栄作(566)　秋元　道別(594)
石井　克太(614)　野島　一雄(676)　龍　君江(838)　遠山　高広(858)
日暮　浩美(915)　池本　直人(956)　松井　法一(974)　成田　幸治(976)
大村　研(1086)　中村　央(1156)

上記以外の幹事

平成28年度 なため会決算報告
（自28.4.1　至29.3.31）財　務　部

1．会計報告

●一般会計

収入の部	予算額	決算額
前年度繰越金	4,702,154	4,702,154
なため会費	1,650,000	1,838,000
利息収入	5,000	229
諸収入	75,000	175,537
合　　計	6,432,154	6,715,920

支出の部		
【活動費】		
〈総務部〉		
会議案内通信費	50,000	56,155
薫風運送費	160,000	164,356
慶弔費	30,000	30,000
事務用品費	2,000	2,120
名刺作成費	5,000	2,300
明大スポーツ新聞購入費	10,000	5,000
住所不明調査費	5,000	0
会費納入推進費	65,000	0
〈財務部〉		
会費集金手数料	50,000	48,290
振り込み手数料	10,000	8,795
〈広報推進部〉		
薫風制作費	190,000	207,144
薫風制作通信費	10,000	0
ホームページ維持管理費	10,000	10,000
プロバイダー更新費	10,000	9,720
ホームページ改定費	50,000	20,000
〈企画振興部〉		
なため会ワンデルングマネージ交通費	20,000	0
〈山小屋管理部〉		
奥鬼怒山荘ワーク参加者補助費	70,000	57,144
〈事業運営部〉		
会場使用料	80,000	79,380
印刷代	5,000	0
親睦旅行会マネージ交通費	0	0
会場利用通信費	1,000	0
会員アンケート通信費	30,000	14,744
【補助費】		
懇親会現役参加補助費	100,000	60,000
コーチ助成金	0	0
【渉外費】		
〈駿台体育会費〉		
駿台体育会活動費	115,000	115,216
駿台体育会カレンダー購入費	108,000	61,800
〈歓送迎会運営費〉		
御祝金	0	0
卒業生会費	63,000	54,000
現役会費補助費	160,000	123,000
会場使用料	52,000	28,080
吊り看板代	11,000	1,800
【その他費用】		
針生山山荘竣工30周年記念事業費	300,000	187,121
【予備費】	100,000	0
支出合計	1,842,000	1,346,147
収支差額	4,590,154	5,369,773

会費内訳		
年会費	3,000	3,000
口　数	550	613
合　計	1,650,000	1,838,000

次年度繰越金	4,590,154	5,369,773
OB基金	4,831,000	4,831,000
総　資　産	9,421,154	10,200,773

●なため会総資産

普通預金	2,286,854 (ゆうちょ銀行)
普通預金	282,919 (三菱東京UFJ)
定額貯金	7,631,000 (ゆうちょ銀行)
現　　金	0
合　　計	10,200,773

上記の通り報告致します。　財務部　柳川俊泰（792）
上原　誠（1115）

2．監査報告

平成28年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

監　事　池田陽一（527）　横尾廣志（728）

平成28年度事業報告

1　重点目標

1　会員サービスの向上
2　会費納入の強化
3　運営委員の増員

2　活動報告

1　H28・4・12(火)　運営委員会（体育記念室）
2　H28・4・25(月)　2015年度会計監査（体育記念室）
3　H28・4・26(火)　駿台体育会第１回理事会（アカデミーコモン）
4　H28・4・27(水)　針生山荘竣工30周年記念事業実行委員会（体育記念室）
5　H28・5・10(火)　運営委員会（体育記念室）
6　H28・5・17(火)　針生山荘竣工30周年記念事業実行委員会（体育記念室）
7　H28・5・21(土)　第57回なため会W（陣馬山）
8　H28・5・29(日)　幹事会・会員総会（大学会館３Ｆ）
9　H28・6・3(金)～6・5(日)　奥鬼怒山荘ワークワンデルング
10　H28・6・14(火)　運営委員会（体育記念室）
11　H28・6・15(水)　駿台体育会総会 兼 オリンピック壮行会（リバティタワー23Ｆ）
12　H28・6・21(火)　針生山荘竣工30周年記念事業実行委員会（体育記念室）
13　H28・7・12(火)　運営委員会（体育記念室）
14　H28・7・20(水)　針生山荘竣工30周年記念事業実行委員会（体育記念室）
15　H28・7・30(土)　薫風53号発送（会員アンケート実施）（体育記念室）
16　H28・8・21(日)　針生山荘竣工30周年 現地挨拶回り（南会津町）
17　H28・8・26(金)　針生山荘竣工30周年記念事業実行委員会（体育記念室）
18　H28・8・27(土)　第58回なため会W（谷川岳）
19　H28・9・13(火)　運営委員会（体育記念室）
20　H28・9・27(火)　針生山荘竣工30周年記念事業実行委員会（体育記念室）
21　H28・10・4(火)　駿台体育会第２回理事会（大学会館３Ｆ）
22　H28・10・11(火)　運営委員会（体育記念室）
23　H28・10・22(土)　第59回なため会W（斎藤山）
24　H28・10・23(日)　針生山荘竣工30周年記念式典（針生山荘）
25　H28・10・24(月)　駿台体育会親善ゴルフ大会（久能カントリークラブ）
26　H28・11・8(火)　運営委員会（体育記念室）
27　H28・12・7(水)　大学役職者と駿台体育会との懇親会（リバティタワー23Ｆ）
28　H28・12・17(土)　忘年会・幹事会（リバティタワー23Ｆ）
29　H28・12・29(木)～31(土)　奥鬼怒山荘ワークワンデルング
30　H29・1・10(火)　運営委員会（体育記念室）
31　H29・1・21(土)　薫風54号発送（体育会記念室）
32　H29・1・28(土)～29(日)　駿台体育会と体育会監督会との合同研修会
33　H29・2・4(土)　第60回なため会W（三ツ峠）
34　H29・2・14(火)　運営委員会（体育記念室）
35　H29・2・25(火)　名簿改訂実行委員会（体育記念室）
36　H29・2・27(土)　平成28年度卒業生歓送迎会（大学会館３Ｆ）
37　H29・3・14(火)　運営委員会（体育記念室）

平成29年度 なため会予算
（自29.4.1　至30.3.31）事業運営部

1．一般会計

収入の部		
前年度繰越金	5,369,773	
なため会費	1,650,000	550名×3,000
利息収入	2,000	
諸収入	95,000	
合　　計	7,116,773	
支出の部		
【活動費】		
〈総務部〉		
会議案内通信費	50,000	
薫風運送費	160,000	
慶弔費	30,000	
事務用品費	30,000	プリンタ20,000、振込用紙作成
名刺作成費	5,000	
明大スポーツ新聞購入費	5,000	
住所不明調査費	5,000	
〈財務部〉		
会費集金手数料	45,000	
振り込み手数料	10,000	
〈広報推進部〉		
薫風制作費	280,000	４頁カラー45,000×２、20頁（95,000円）×２、@4750円／頁
薫風制作通信費	10,000	通信費・事務用品費含む
ホームページ維持管理費	10,000	
プロバイダー更新費	10,000	
史料編纂費	10,000	年表・部誌デジタル化調査費として
ホームページ改定費	50,000	ホームページリニューアル
〈企画振興部〉		
なため会ワンデルリングマネージ交通費	20,000	
〈山小屋管理部〉		
奥鬼怒山荘ワーク参加者補助費	70,000	
〈事業運営部〉		
会場使用料	102,600	
会場利用通信費	5,000	
会員アンケート通信費	0	
会場納入推進費	100,000	会費未納者の掘り起こし（納入以来、アンケート等）
【補助費】		
懇親会現役参加補助費	96,000	16名×6,000＝96,000
【渉外費】		
〈駿台体育会費〉		
駿台体育会活動費	115,000	
駿台カレンダー購入費	62,000	必要購入数(購入数は夏合宿以降運営委員会協議)
〈歓送迎会費〉		
卒業生会費	112,000	16名×7,000(紫紺館開催の場合)
現役会費補助費	180,000	45名×4,000(紫紺館開催の場合)
会場使用料	52,000	リバティタワー岸本・宮城ホール(紫紺館開催０円)
吊り看板代	11,000	紫紺館開催
【その他費用】		
会員名簿製作費	250,000	
針生山荘竣工30周年記念事業費	0	
【予備費】	100,000	
支出合計	1,985,600	
収支差額	5,131,173	
次年度繰越金	5,131,173	
OB基金	4,831,000	
総　資　産	9,962,173	

2．ＯＢ基金

廉隅家・鈴木家・柴田家寄付金	1,083,000
山小屋募金他	3,257,000
校友会館（紫紺館）建設基金	491,000
	4,831,000

平成29年度事業計画

1．重点目標

会員サービスの向上
会費納入の強化
運営委員の増員

2．活動計画

1．４月11日（火）　運営委員会（体育記念室）
2．４月25日（火）　駿台体育会第１回理事会（ｱｶﾃﾞﾐｰｺﾓﾝ）
3．４月27日（木）　2016年度会計監査（体育記念室）
4．５月９日（火）　運営委員会（体育記念室）
5．５月20日（土）　第61回なため会W（箱根古道）
6．５月28日（日）　会員総会・幹事会（大学会館）
7．６月２～６月４日　奥鬼怒山荘ワークワンデルング
8．６月６日（火）　駿台体育会 第１回常任理事会（グローバルフロント）
9．６月13日（火）　運営委員会（体育記念室）
10．６月21日（水）　駿台体育会総会（リバティタワー）
11．７月11日（火）　運営委員会（体育記念室）
12．７月22日（土）　薫風55号発送（体育記念室）
13．８月27日（土）　第62回なため会W（薬王院で精進料理）
14．９月５日（火）　駿台体育会 第２回常任理事会（大学体育会館３Ｆ）
15．９月12日（火）　運営委員会（体育記念室）
16．10月２日（月）　駿台体育会親善ゴルフ大会（鎌ヶ谷カントリークラブ）
17．10月３日（火）　駿台体育会第２回理事会（ｱｶﾃﾞﾐｰｺﾓﾝ）
18．10月10日（火）　運営委員会（体育記念室）
19．10月28～29日　第63回なため会W（丹沢湖畔世附川ロッジ宿泊）
20．11月14日（火）　運営委員会（体育記念室）
21．12月６日（水）　大学役職者と駿台体育会との懇親会（リバティタワー）
22．12月16日（土）　忘年会・幹事会（リバティタワー）
23．12月29～31日　奥鬼怒山荘ワークワンデルング
24．１月９日（火）　運営委員会（体育記念室）
25．１月27日（土）　薫風56号及び新会員名簿発送（体育記念室）
26．１月27日（土）　駿台体育会 第３回常任理事会（箱根湯本ホテルおかだ）
27．１月27～28日（土・日）　駿台体育会と体育会監督会との合同研修会（箱根湯本ホテルおかだ）
28．２月４日（土）　第64回なため会W（伊豆ヶ岳と秩父札所）
29．２月13日（火）　運営委員会（体育記念室）
30．２月24日（土）　駿台体育会 第４回常任理事会（大学会館３Ｆ）
31．２月24日（土）　平成29年度卒業生歓送迎会（リバティタワー）
32．３月13日（火）　運営委員会（体育記念室）

伝統的登山を広めたワンダーフォーゲル部

―「部誌」と「周年誌」にみる学生登山の歴史―

城島　紀夫

一、学生登山の近代と現代

近代に生成発展した山岳部

近代の学生登山の歴史は、その始期を帝国大学運動会が発足して学校の遠足や修学旅行が広まる契機となった一八八六（明治一九）年と捉えると、太平洋戦争が終結した一九四五（昭和二〇）年までの約六〇年間の活動であった。

一九一九年に施行された大学令によって私立大学の設立がはじまり、次々と山岳部の設立する学校が増えて学生登山が普及した。

一九二一年頃までは学生登山は、日本人が日本の山を歩くという古くからの伝統的登山が続いていた。

やがて登山方法に、もう一つの流れが生まれた。それは西洋から移入された雪と氷に挑む冒険的登山の流行であった。西洋の用具と登山技術が紹介され、学生山岳部の大勢は登山方法を先鋭化させてアルピニズムの時代とも呼ばれ、初登頂、新ルートなどの新記録に挑む先鋭的な活動が盛んにもてはやされた。

冒険心、登山技術、体力などの差異から個人山行が主体となっていた。次いで海外高山の雪と岩に憧れる風潮が強まり、活動がさらに先鋭化した。

一方で、一九三〇年頃からわが国の伝統的な登山を愛好する学生が次第に増加し始め、山岳部の衰退が始まった。伝統的な登山を愛好する学生たちが山岳部から遠ざかっていったのである。しかし分化して山岳部と並ぶ新種目を組織化することは困難なことであった。課外活動において「部」を認可する基準に「一種目につき一部」という原則があったためである。

一九三六年にわが国で初めて明治大学ワンダーフォーゲル部が学友会・運動部への加入を承認され、スポーツの新種目が誕生した。近代において既にワンダーフォーゲル部が萌芽していたのである。これに先立つ一九三五年に立教大学と慶應義塾にワンダーフォーゲル部が設立されていたが共に体育会への加入が成らずに文化会に所属していた。一九三八年に、三大学による全日本学生ワンダーフォーゲル連盟が結成され、ワンダーフォーゲル部の普及活動が始まっていた。

近代という時期は、西洋から多くのスポーツが学校に移入されて、学生たちがその先導役を務めた時代であった。

現代に生れたワンダーフォーゲル部の設立の波

現代の学生登山は、太平洋戦争が終結した後の一九四六（昭和二一）年から現在までの約七〇年間の登山活動の歴史である。

現代は「山岳部に入らなくても登山が出来る時代がやってきた」といわれて、ワンダーフォーゲル部が興隆し学生登山の本流となった時代である。学生登山は戦後直ちに復活したが、冒険的志向の山岳部は衰退現象が続き、伝統的登山を志向するワンダーフォーゲル部は大量の部員を迎えて発展への道をたどった。

戦後（近代）にはわが国の教育制度が大幅に変更され、全ての都道府県に新制大学が設置されるなどの教育の大衆化がはじまった。近代における旧制高等学校への進学率は同世代の男子のうちの一％以下であり、登山を行うのは経済的に恵まれた少数の学生であったが、現在で高校生の大学への進学率は五〇％を超えており登山を行う学生は大幅に増加した。

戦後の最初に復活したワンダーフォーゲル部は明治大学体育会ワンダーフォーゲルであり、後続して設立されたワンダーフォーゲル部は、体育会に所属することが通例となり山岳部と並んで登山系の種目として定着した。

新制大学において体育実習が必修科目とされたことに伴って、キャンプを行う登山が人気を呼びワンダーフォーゲル部は急速に部員が増加した。現代の初期にはサイクリングやキャンプなどの青少年育成運動が行われており、ワンダーフォーゲル部の普及はレクレーションの普及とほぼ同期したものであったと見ることができる。

ワンダーフォーゲル部は一九五〇年から一九六〇年代の間に全国の大学の約一六〇校に普及した。この普及の波は、戦後に新制大学に起こった新しい学生登山の普及の大波であった（拙著『ワンダーフォーゲルのあゆみ』を参照）。

各大学のワンダーフォーゲル部は多数の部員を迎え、それぞれに集団活動のための組織化を図り、夏山全員合宿を中心とした年間計画と実習訓練計画を定例化し、部誌を定例発行するなどの活動スタイルを築き上げた。戦後の教育の大衆化と共に生成発展した新しい登山文化の生成発展であった。

伝統的登山を受け継いだワンダーフォーゲル部

戦後に学生ワンダーフォーゲル部がたどった道は、冒険的な山岳部のスタイルではない伝統的な登山を静かに普及させるあゆみであった。山岳部は「より高く、より困難へ」というイズムを掲げていたが、ワンダーフォーゲル部にはイズムというものはなかった。ワンダーフォーゲル連盟を通じて登山を「逍遥の山旅」などとしてわが国の伝統的な登山を広めていた。

ワンダーフォーゲル部の各部の活動内容はさまざまであったが、全員が参加して行う夏山合宿が例外なく行われ、年間活動の主行事とし今日まで継承されて、ワンダーフォーゲル部の伝統となっている。

山旅は日本の文化であると広く言われている。登山の態度について記されたものを次に紹介したい。

田部重治は述べている。「山旅という言葉は、日本の登山を表すのに好適な表現だと、私は前から信じている。ヒマラヤやアルプスの登山を山旅と称することは、決して適切な表現とは思われない。しかし日本に於いては、登山の旅は、単に山頂だけでなく、峠、高原、山湖、渓谷、森林、時には山村などをも対象とする、山岳地方の旅を含み、且つこれ等のものは、山頂に劣らず、それぞれ独立の価値をもって、登山者を誘引する魅力をもっているので、山頂およびこれ等一切のものを含む登山の旅を、山旅という言葉をもって表現することは極めて適切であると思う」（『わが山旅五十年』より）。

田口二郎は「アルピズムの新しい波は、それ以前の伝統的登山を蹴散らしたのではなく、その堅牢な潮流の上に乗って進展した。日本の登山の流れを見ると、伝統的登山は登山の基層として存在し、アルピニズムはその上層として発展している」（『東西登山史考』より）としている。

これらの見解は、今日まで冒険的な登山に憧れる山岳部の出身者たちから無視されてきた。したがって、これまでに山岳部出身者などによって書かれた日本の登山史やそれに類する書物には大学ワンダーフォーゲル部の登山活動の歴史とその登山史的な価値は書かれて来なかったのである。

二、「部誌」と「周年誌」が語るワンダーフォーゲル部の歴史

一九六〇年あたりまでに創部した大部分の大学ワンダーフォーゲル部は、創部した直後から、年刊の「部誌」を継続的に発行していた。

このほかに発行されていたものは合宿報告書、部紙、周年記念誌、連盟の機関誌、などである。これらの図書には、ワンダーフォーゲル部の活動の歴史を描き出す数多くの記録が残されており、これらは後世への文化遺産としても貴重な資料であると思われる。

また各資料がそれぞれの時代の社会的な背景を映し出している点においても真に興味深いものがある。

本調査は筆者が数年間にわたって多くの大学ワンダーフォーゲル部のOB・OG諸氏の協力を得て入手もしくは借用したものをもとに行ったものである。この資料が日本の登山史を俯瞰する上で何等かの役割を果たすことができれば幸いである。

部　誌

ワンダーフォーゲル部では「部誌」と呼んで集団合宿などの集団活動の全記録を掲載しており、OB・OGたちの若き日の活動記録を部員全員で執筆する伝統が継承されていた。OB会の絆の原点はここにありと思わせるものである。山岳部では「部報」と呼んでおり個人記録に重点が置かれていた。

部誌の主な内容は、基本方針、年度活動方

針、年間活動計画、役員・分担責任者、活動報告（全員合宿とフリー合宿）、随想、紀行、部規約、ＯＢ会員・部員住所録、部歌、地域研究などである。

大部分のワンダーフォーゲル部は一九六〇年代の前半頃まで、年度ごとに「部誌」の発行を続けていた。発行が途絶えた時期には、学生の体育離れが始まり、同好会やサークルが多数発生し、これまでの集団的な活動が受け継がれなくなっていた。

その後に復刊して、現在も発行しているワンダーフォーゲル部には明治大学、早稲田大学などがある。以下に、ワンダーフォーゲル部が発行していた部誌名を紹介する（創部年順）。

【部誌名『覧】（創部年・大学名、部誌名）

一九三五年・慶應義塾『ふみあと』、立教『いろりび』一九三六年・明治『Wander Vogel』一九四八年・中央『渡り鳥』一九四九年・早稲田『彷徨』一九五一年・東京『山路』、法政『雲海』一九五三年・横浜市立『峠』、日本『くさはら』一九五四年・お茶の水女子『アルペンローゼ』、東京都立『乗越』、神奈川『どろぐつ』、國学院『野づら』一九五五年・北海道『道標』、学習院『紫峰』、関西学院『溪聲』、津田塾『やまなみ』、東京経済『くぬぎ』、東京女子『こまくさ』、明治学院『ヤッホー』〈以下省略〉

周年記念誌

創部以来の歴史を集約してＯＢ会が編集・発行した『周年記念誌』が二〇〇〇年代を中心に多数発行された。部誌を基にして活動の歴史を巧みに要約した労作が多い。

創部以来の山行の全記録を一覧表としたものもある。その代表的なものは、東京大学、明治大学、金沢大学、慶應義塾大学などのものであり、合宿回数、個人山行回数、日程、山域、コース、参加者名などの記録があって活動の時代的な推移も読み取ることができる。

また、部誌が休刊となって以降の登山記録を補って収録している点においても重要な価値がある。

ワンダーフォーゲル部と山岳部の周年記念誌の発行状況ならびに国立国会図書館と日本山岳会資料室に収蔵されている状況を【表・1】として報告する。

連盟機関誌

全日本学生ワンダーフォーゲル連盟が機関誌（年刊）を一九六〇年から一九六五年まで毎年発行した。

『ワンダーフォーゲル年鑑』と一九六四年から名称変更した『ワンデルン』である。

各部の「内容一覧表」として、加盟している部の創立年月、部員数、部長・監督・主将名、加入局名（体育・文化）、部誌名、部室の有無、山小屋、部費、学校補助金、遭難対策金、合宿回数・日数、ワンダリング回数、個人山行の可否、などが記されており、大学のワンダーフォーゲル部が発展期から成熟期に向っていた当時の模様が浮き彫りにされている。

この連盟は、大学ワンダーフォーゲル活動の情報交換の役割を終えて、一九六五年に解散した。

ＯＢ会が歴史資料を電子化

前記の『周年記念誌』などの歴史資料を収集して電子化（アーカイブなど）している東京大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会などの例が見られるようになった。また横浜国立大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会は、ホームページに「歴史資料館」を開設して、公式ワンダリングの全記録、部誌の全集などを収録している。

右の様な電子媒体を利用した記録集はまだ少ないが、ＯＢ会が現役のホームページとリンクさせてホームページを開設する例は増加しており、現役とＯＢとの交流の機会が多くなりつつあるようだ。

「ＯＢ会報」を会員に印刷発送する方法から電子版での閲覧提供に切り替えるＯＢ会が増加しているのも最近の状況である。

三、両部の活動現況は

大学のワンダーフォーゲル部と山岳部の両部が活動している現況は【表・2】に示すとおりである。

調査対象とした大学は、全国一一七校の総合大学であり、大学ならびに各部の二〇一六年度公式ウェブサイトを閲覧して行った。

戦前にはすべての大学に山岳部があった

表１　周年記念誌一覧（発行年順）

［ワンダーフォーゲル部］

発行年	大学名	周年	判型	頁数	収蔵	
1960	慶應義塾大学	25	A5	179	−	
1964	立教大学	30	A5	181	−	
1966	明治大学	30	A5	175	○	
1985	岩手大学	20	B5	130	○	
1986	慶應義塾大学	50	A5	212	−	
1987	立教大学	50	A5	268	−	
1991	中央大学	40	A5	429	○	
1993	金沢大学	35	A5	779	○	
1997	明治大学	60	B5	447	○	☆
1999	早稲田大学	50	A4	51	○	
	法政大学	50	A4	261		☆
2001	東京大学	50	A4	307	○	☆
2003	横浜市立大学	50	B5	324	○	☆
	日本大学	50	A4	271	−	
2004	國學院大學	50	A5	149	○	
2005	北海道大学	50	A4	413	○	
	福井大学	50	A4	107	−	
	女子美術大学	49	B5	435	○	
2006	埼玉大学	50	A4	60	−	
	学習院大学	50	B5	175	○	
	関西大学	50	A4	131	−	
	関西学院大学	50	A5	600		☆
2007	東海大学	50	A4	335	−	
	横浜国立大学	50	A4	138	○	
2008	大阪市立大学	50	A4	156	○	
	京都府立大学	50	A4	148	−	
	成蹊大学	50			−	
	上智大学	50	B5	155	−	
	日本工業大学	40	A4	61	−	
2009	早稲田大学	60	A4	55	○	
	日本大学（医）	50	A5	508	○	
	大阪外国語大学	50	A4	258	○	
	大阪大学	50	B5	302	○	
	中央大学	60	A4	96	−	
	名古屋大学	50	A4	172	−	
	山形大学	50	A4	133	−	
2010	神戸大学	50	A4	87	−	
2011	西南学院大学	50	A4	121	−	
	東京学芸大学	50	A5	282	○	
2012	山口大学	50	A4	146	−	
2014	同志社大学	50			−	
2015	東京経済大学	60	A4	183	○	
	明治学院大学	60	B5	166	−	

［山岳部］

発行年	大学名	周年	判型	頁数	収蔵	
1968	第一高等学校	50	B5	245	○	
1977	東京農業大学	50	B5	329		☆
1979	北海道大学	50			−	
1981	鳥取大学	60	B5	169	○	
	東京大学	50	A5	448	○	☆
1983	立教大学	60	A5	512		☆
	秋田大学	30	B5	205		☆
1994	法政大学	70	B5	203	○	
1995	神戸大学	80	B5	418	○	
	明治学院大学	50	B5	208		☆
	関西大学	70	A4	395		☆
2000	早稲田大学	80	A5	423		☆
	関西学院大学	80	A4	395	○	
	東京大学	75	A5	448	○	☆
2001	千葉大学	50			−	
	福岡大学	50	B5	105		☆
	甲南大学	75	B5	373		☆
	青山学院大学	75	A5	328		☆
2002	東京都立大学	50	A4		○	
	明治大学	80	B5	314	○	☆
	東京都外国語大学	50	A5	350	○	☆
	立教大学	80	A5	399		☆
2003	静岡大学	70	A4	447		☆
2004	日本大学	80	B5	275	○	☆
2005	長崎大学	50	B5	352	○	☆
2006	同志社大学	80	B5	670	○	☆
2007	京都府立大学	50	B5	231	○	
2008	東北大学	50	B5	293	○	☆
2010	神奈川大学	80	B5	320		☆
2011	大阪経済大学	65	A4	126	○	
2012	一橋大学	90			−	
	明治大学	90	A5	848		☆
2014	東京大学	90	A5	142	○	☆
2015	神戸大学	100	A5	808		☆
2016	同志社大学	90	A4	243	○	☆

注・１　収蔵先
　　○印は国立国会図書館、
　　☆印は日本山岳会 資料室。
注・２　空欄は調査中のもの

表２　両部の活動部数（2016年９月現在）

総合大学の校数		部の数（部）		同一大学内の組織状況（校）			
	（校）	WV 部	山岳部	両部あり	WV 部のみ	山岳部のみ	両部なし
国立	51	45	29	28	17	1	5
公立・私立	66	39	26	22	17	4	23
計	117	84	55	50	34	5	28

が、現在は様変わりとなり山岳部は大幅に減少している。

ワンダーフォーゲル部が活動している割合は国立大学の方が高く約九〇％である。公立・私立の方が約六〇％と低くなっているのは、レジャーブームといわれた一九六〇年以降に新設された大学にはワンダーフォーゲル部が非常に少ないことが原因である。サークルや同好会などの多発による現象だと思われる。

部の公式ホームページに年間活動計画や活動内容の詳細を記載した部は半数以下であった。これらを見ると両部の活動内容が類似しており、この傾向は次第に進んでいるものと見られる。「山岳ワンダーフォーゲル部」が設立された大学も現れている。

活動が多様化

部誌の発行が途絶えた頃から、団体や組織を忌避する自己中心的な行動が広まり、個人主義が強まった。一九六〇年代後半から、部活動よりも自由な行動ができる同好会や

サークルが多数発生し始めた。夏合宿への全員参加の伝統が崩れはじめたのもこの頃である。

七〇年代には大学進学率が二五％を超えて、私立大学が増設され、続く八〇年代には大学のレジャーランド化が話題となりワンダーフォーゲル部の部員数も減少した。

一九九〇年代から再び部員が増加し始めた。新入部員を獲得するために、登山以外の各種の野外活動を採用することが流行して、活動内容がますます多様化した。

近年では大学がキャリア教育の一環として、任意団体のサークルの結成を奨励し、届け出があれば大学が認可することが通常化している。学生にコミュニケーション能力を習得させることなどが目的とされている。

このような状況の中で、活動の目的が不明確化するワンダーフォーゲル部が増加しているものと見られる。

近年では、部活動の目的を「登山です」と明示するワンダーフォーゲル部が国立大学を中心にして次第に増加していることに注目したい。

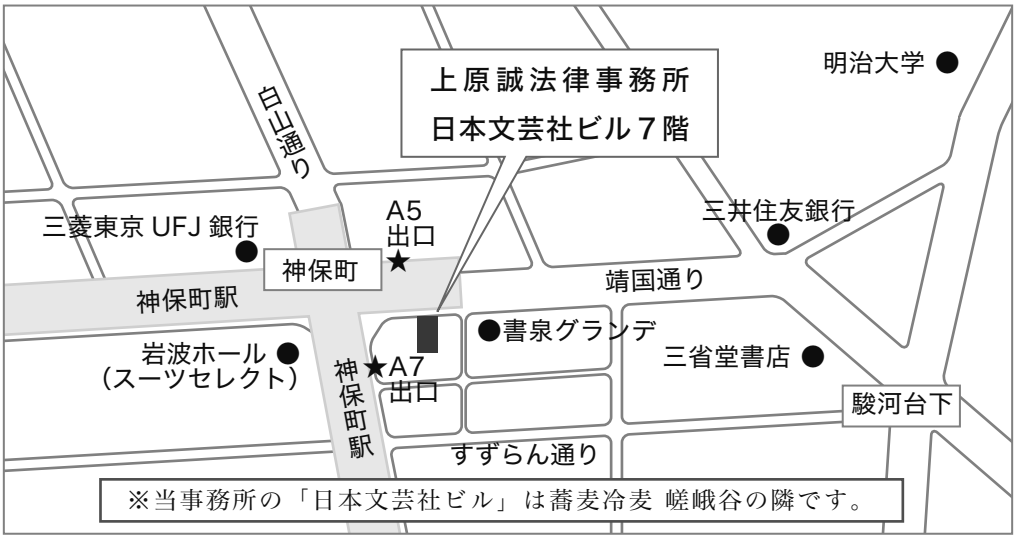
註・この文章は著者の了解を得て、「山岳文化」第一八号（日本山岳文化学会二〇一七年五月発行）より転載（一部省略）したものです。

著書略歴
城島 紀夫（じょうじま のりお）
1935年佐賀県生まれ
明治大学卒、日本山岳会会員、当学会会員

上原誠法律事務所開設のご案内

平成５年度卒　BN 1115　上 原　誠

＜事務所所在地＞
上原誠法律事務所
〒101-0051
東京都千代田神田神保町１－７　日本文芸社ビル７階
TEL 03-3518-9750　　FAX 03-3518-9760
E-mail　uehara@uehara-law.com
＜交通案内＞
○東京メトロ・都営地下鉄神保町駅A７／A５出口より徒歩１分
○JR御茶ノ水駅より徒歩７分



暑中御見舞申し上げます。

後列左から　守重・深川・佐藤寛・池田・飯塚・小島・大橋・三嶋
前列左から　鈴木・坂上・三宮・井出、増田・東郷

昭和39年度卒業　山久会

訃報

BN444　岡　仁OBが平成28年6月4日にご逝去されました。
BN468　鹿嶋信太郎OBが平成29年4月6日にご逝去されました。
BN700　坂本　清(元部長)OBが平成29年6月16日にご逝去されました。
ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記

BN601　池上　勝彦

梅雨明け宣言を前にしての連日の暑さには閉口でした。今年はスーパー猛暑到来と言う事ですが、地球温暖化の影響はどこまで行くのか不安を感じるところです。九州地方の豪雨も泥土に加え流木の多さに驚かされました。山は災害を防ぐとの格言はどうなったのでしょうか。被害者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

国会での森友・加計学園問題の対応や議員の失言、信じ難い行動等々を見るにつけ、今の政治に問われているのは何かを考えさせられる今日この頃です。

薫風発行に原稿をお寄せ下さった皆様に感謝すると共に、これからもOB・OGの方々のご支援とご協力を賜わりたく心よりお願い申し上げます。

発行日　平成二十九年二月
編　集　鈴木康弘　一色雅男　池上勝彦
　　石井克太　住田孔一　猪狩　稔
　　加藤章一　井上稔也　日暮浩美
発行者　明治大学体育会
　　ワンダーフォーゲル部なため会
印刷所　三協印刷株式会社